



職場のハラスメント相談対応術

三木 啓子 著

経験の積み重ねから得られた貴重なハラスメント対応術

長島 恵子

この本は、パワハラやセクハラなどのハラスメントがどのようなのかをわかりやすく解説し、相談の対応方法や留意点を示している。さらに法律上の観点、裁判事例などを挙げて問題の経過と解決への道筋、相談者や行為者への心理面への理解とその必要性、職場の現状を述べながら、読者の理解を促していく。著者の豊富な現場経験に裏打ちされた実践的なハラスメント対応の書であり、ハラスメントの被害に悩んでいる人にも参考になる。

本文の構成は以下の6章からなっている。第1章「ハラスメント」は定義と種類、社会勢力、使用者、行為者の責任について、第2章「相談における対応とメンタルヘルス」は被害を受けた時、相談時の留意点、相談員の役割とストレスについて、第3章「事実の確認」は行為者、第三者へのヒアリング時の留意点と方法について、第4章「動き出した日本のパワハラ対策」は厚生労働省の定義と提言（法的根拠）、実態調査、労災認定基準について、第5章「判例解説」は事例の判決・決定について、第6章「防止体制」は防止指針の作成と体制づくりについて、実践的に解説する。以上に加え、随所に設けたコラムで、パワハラにつながる部下の叱り方、学習的無力感について、パワハラ相談件数と心の病の労災申請件数、ヨーロッパの取り組みを紹介して、本文の理解を深めている。

現在筆者は相談員として職場での心理相談を担当している。職場の人間関係にかかわる相談では、ハラスメントに関する事例が少なくない。職場内でハラスメントを受けて辛い状況でも、仕事を失いたくないのでどのように対処したらいいのかと来談される事例が多い。なかには客観的に見てハラスメント被害者と思える状況でも、相談者自身にその自覚がなく、相手との関係に苦しんでいる事例もある。

著者は、このような事例もあることを理解した上で、職場のハラスメントのガイドラインの提示や研修の必要性を述べている。防止体制を進めることを提唱して「ハラスメント防止5カ条」と題して、具体的な提案をしていることに注目したい。

第2章では、相談員として役割遂行のために必要なことを簡潔かつ具体的に述べている。相談者の心理状態についても詳しく説明があるので、相談を受ける際には本書を活用して、適切な対応を行うことができるだろう。

私が新任のころからこの著書に会っていたなら、早いうちに相談者に寄り添い、解決の道りが進んだに違いない。今も研鑽に努める日々であるが、この書に出会い、ハラスメント全般の理解の幅が広がった。

この章では、相談員のストレスにも注目している。相談を受けてから、内容が頭を離れない。対応



三木 啓子 著

アトリエエム株式会社、2013年11月、A5判並製、64頁、定価648円

が悪かったのではと悩む場合があることを指摘し、解決は組織の責任であると明言している。そして相談員のメンタルストレス対策を述べているが、これは経験を積んできた著者だからこそできる行き届いた助言といえる。

以上、実践経験の積み重ねから得られた貴重なハラスメントの対応術を、著者は惜しむことなく一冊のブックレットに凝縮してみせた。相談員の実務書として必読の書であり、ハラスメント対策の参考書として、企業、行政機関、教育機関、労働組合、NPOなど人事労務関係者の方々にも活用をおすすめしたい。

ながしま けいこ
産業カウンセラー